



# 八幡小だより

北九州市立八幡小学校  
校長 田頭 麗宏



## 風邪の子の客よろこびて <sup>ふすま</sup>襖あく 星野 立子

早いもので、今年もあと一ヶ月を残すだけとなりました。少し前まで秋のさわやかな陽気が続いていましたが、次第に寒さが厳しくなっています。ご存知のとおり、新型コロナウイルス感染症の第3波といわれる中、例年インフルエンザ流行の兆しが見られる時期でもあります。健康管理にはいっそうご留意いただきたいと思います。なお、風邪症状が見られる場合などは無理することなく、登校を控えていただくようお願いいたします。この句のように、風邪をひいて部屋の中から出ないように言われ、退屈している子どもが来客の様子をこっそりうかがう気持ちはよくわかります。しかし、早期治癒や感染予防のためには我慢が必要です。



さて、例年なら『2学期のまとめ』を迎える時期ですが、今年は『後期の真っ最中』です。とは言え、26日からの冬休みはひとつの区切りとなります。「あゆみ」は渡せませんが、子どもたち一人一人が成長の価値を感じられるようにして、今年をしめくくりたいと考えています。ご理解、ご協力のほどよろしくお願いいたします。



### 健康チェックリスト表が変わります

本日付で「学校保健マニュアル」が改訂され、『健康チェックリスト表』の様式が変更されました。これまでのように細かい症状のチェックをせず、風邪症状「あり」か「なし」を丸で囲むようになります。また、連絡欄の活用は今まで通りです。一ヶ月単位になっているので、記入欄が少し狭くなっています。ご容赦ください。

## 未来へつなげよう 違いを認め合う心を

12月4日～12月10日は人権週間です。学校では、学習をはじめ学校生活のあらゆる場面で、人権意識の高揚を図る指導を行っています。あらゆる場面というのは、給食時間や掃除時間、休み時間などでも、複数の子どもたちが互いにかかわるからです。「集団」がある以上、「人権の尊重」は不可欠ですし、場合によっては指導も必要になります。

公立小学校である八幡小学校には、基本的に校区に住む学齢の子どもたちが通っています。当然、さまざまな個性をもつ子どもたちの集団になります。もちろん、みんな違っているわけ



で、これは大人の集団、つまり社会と同じです。ですから子どもたちは、将来社会において「個々の違いを認め合いながら、人権を互いに尊重しあう」ことを、学校生活という経験を通して学んでいるのです。思いやりをもつこと、きまりを守ることもそのひとつです。

自分と比べて異なるものや異なる考えを受け入れることに対して、私たちの気持ちにはブレーキがかかってしまいがちです。しかし、「自分の価値観以外はすべて間違っているから認めない」「異なる考えをもったり行動をしたりする人を排除する（攻撃する）」という考えは、社会生活において人権侵害や犯罪につながりかねません。学校でも、個に応じた指導・支援を行いながら、学級などの集団において一人一人の子どもの違いを認め合い大切にできるような指導を継続していきたいと考えています。ご家庭での働きかけも大変重要です。ご理解、ご協力をお願いいたします。

令和元年度人権週間入選作品  
立ち上げられ  
え顔のバトン つなぐため  
八幡小学校四年（現五年）児童

## マンガ家さんが八幡小にやってきました



北九州市は多数の漫画家を輩出してきた「漫画のまち」です。市内に漫画ミュージアムもあります。

先月17日、市の事業の一環でクラブ活動の時間に漫画家のタネオマコトさん（本市出身）が来校し、子どもたちに指導をしてくださいました。

